

ソフリエ講座の講師が教える

孫と仲良くなる方法

文 草野恵子 イラスト 松本和美

企画協力 NPO 法人エガリテ大手前

孫との遊び方指南、 キメワザをもとう



「孫ともっとコミュニケーションを取りたいけれど、世代が違すぎてどうしてよいかわからない」と、少し歯がゆい思いをしている祖父母の方はいらっしゃるいませんか？

ここでは、祖父が孫の世話に積極的に参加できるようにする「ソフリエ養成講座」から、孫ともっと仲良くなれる方法をお届けします！

「ソフリエ」とは、孫の世話に積極的に参加する「祖父」

のこと。ただ単に孫のお守りをするだけではなく、より積極的に孫と関わりながら、孫の体調管理や安全管理まで気を配ることができるスペシヤリストという位置づけです。現在、「NPO 法人エガリテ大手前」が自治体と一緒に開催する講座を受講して、沐浴やおむつ替えから、もしものときの安全管理まで、基本的な育児の知識や技術をマスターすると「ソフリエ」の称号が与えられ

るようになっていきます。そんな「ズーバーおじいちゃん」になるためのソフリエ講座から、すぐに真似できる「孫ともっと仲良くなるコツ」をご紹介します。

子どもが好きな大人
子どもが苦手な大人

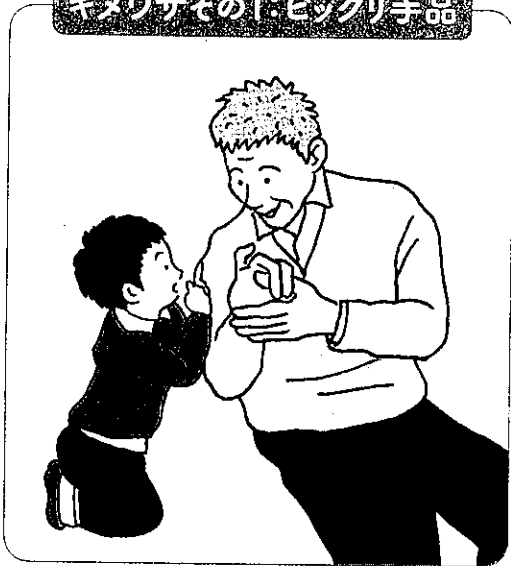
実は「子どもが好きな大人」には、いくつか共通する特徴があります。まず挙げられるのは「ひとりの人間として尊重してくれる人」。年

齢にもよりますが、子どもはつねに対等に扱ってもらいたいもの。子どもだからと軽視せず、ひとりの人間として対応してあげることが大事です。そして「繰り返しに付き合ってくれる人」も大好きです。子どもは同じことを飽きずに何度もやりたがるもの。それを億劫がらずに、根気強く付き合ってくれる大人は好きというわけです。

さらに「何か発見した場合に一緒に感動してくれる大人」も、子どもにとっては嬉しい存在です。「ねえ、見て見てー」と言われたら、「うわーすごいねえ。よく見つけたねー」とわかりやすい言葉を添えながら、一緒に感動してみせましょう。大人はつい「以心伝心」と思いがちですが、実際は言葉に出して言わないと伝わらないもの。ちょっと大げさかなと思えるくらいで、ちょうどよいのかもしれない。そのほか、「子どもの目線で考えてくれる人」、そして時には「そっと見守ってくれる人」も、子どもは大好きです。

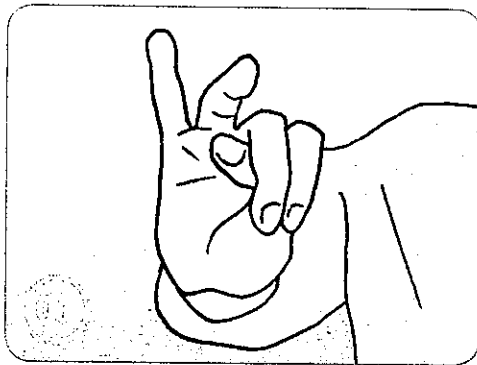
一方、「子どもが苦手な大人」の特徴というものもあります。意外に思われるかもしれませんが「びったりくっついて話す人」は苦手です。もちろん、子どもの年齢や性格によっ

キメワザその1・ビクリ手品

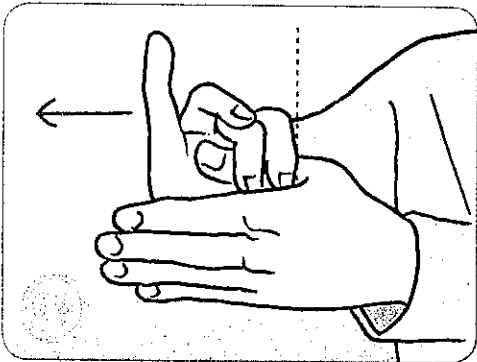


どうなるか見てて、「らん……と、期待を持たせる。」

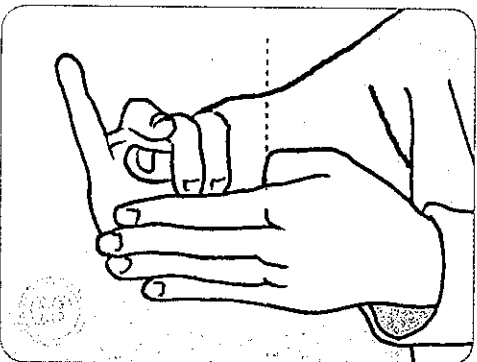
ても違ってきますが、距離感がつかめない大人はイヤだということなのかもしれません。さらに「上からしゃべる人」も苦手です。大人と子どもの身長差はかなりあります。基本的に、幼い子どもはいつも大人を見上げているわけですから、お孫さんと話をするときや遊ぶときには、できるだけ同じ高さの目線になるように心がけましょう。そうすることで、子どもは安心してコミュニケーションを図ることができるのです。また「無視する人」も子どもは苦手、これは大人同士でも当てはまることですよね。子どもがあんまりしつこかったりすると、無視を決め込みたくなく



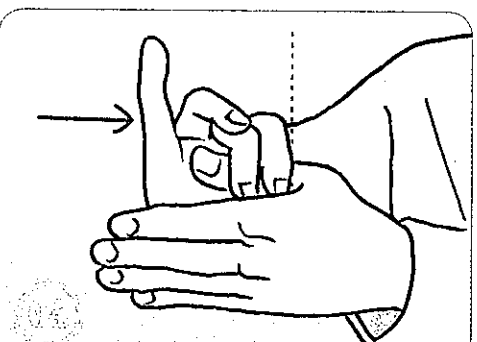
まずは片方の手の親指の根元を人差し指と中指で隠す。



その状態のまま、もう片方の手に近づけて、その手の親指のように見せる。



おもむろに親指を外側にずらして「あれ、離れちゃった!」わざと困った顔をするのがポイント。



元に戻して、「大丈夫、元通りにくっついたよ!」

る気持ちもわからなくはありませんが、ここは根気よく対応することが大事。子どもの大人への信頼感を保つためにも、きちんと対応してあげましょう。

文化の継承を頭の片隅に昔懐かしい遊びをやってみる

では、実際にお孫さんと遊ぶ場合、何をしたらよいでしょうか。遊びの内容は年齢によっても変わってきますが、せっかく祖父母世代が孫と遊ぶなら、文化の継承ということも念頭に入れて、昔懐かしい遊びを思い出しながら取り入れてみるのはどう

でしょう。お手玉やビー玉、おほじき、折り紙など昔ながらのおもちゃを使った遊びはもちろん、クローバーのネットレスや、笹舟をつくって川に流すなど、自然の素材を活かした遊びもいいですね。

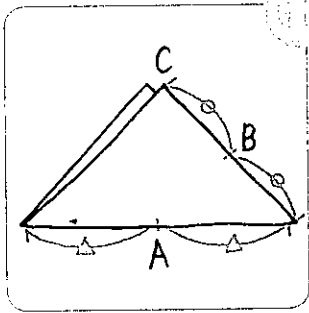
93 ページでは「紋きりあそび」で桜の花をつくる方法をご紹介します。まず、折り紙を指定の方法で折っていきます。ハサミで切るだけで、きれいな桜の花が出来上がります。突如出現する桜の花に、お孫さんは驚くこと間違いなし! 折り紙は難易度が高いと思われがちですが、2歳くらいから折ることができずし、子ども用の安全なハサミを使って祖父母

が教えてあげれば、自分で切ることもできるかもしれません。たとえうまくいなくても、それが当たり前ぜひ楽しみながらトライしてみてください。

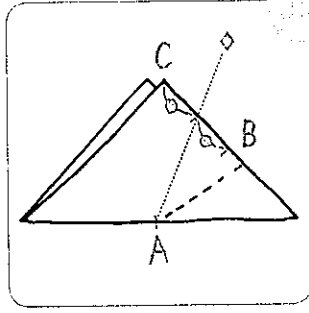
祖父ならではのキメワザで孫の注目を集めてみる

小さなお子さんは、自分を笑わせて楽しませてくれる人が大好きです。ふだんはちょっと近寄りづらい、威厳のあるじいじでも、面白いことや驚くようなことをしてくれたら、途端にお孫さんはじいじが大好きになります。92 ページでは、そんな

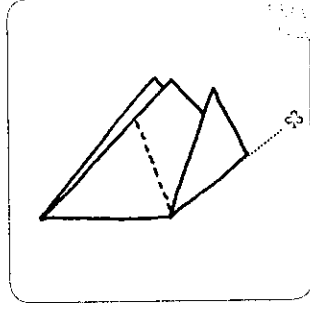
キメワザその2:折り紙でつくる桜の花



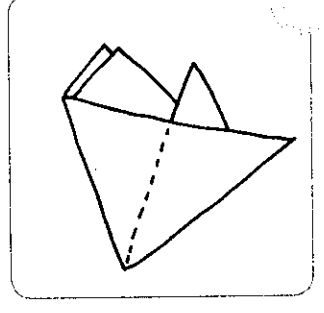
折り紙を半分に折り、それぞれの辺の半分の位置に折りすじをつけておく。



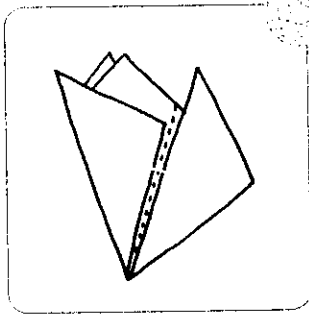
右下の角を持って、◆の印に向かって折る。



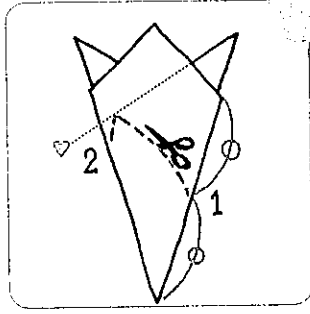
今度は左下の角を持って、♣の印に向かって折る。



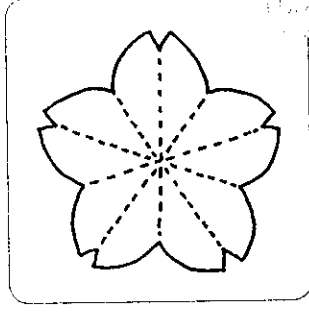
折った手前の紙を、さらに点線に沿って左側に向かって折る。



さらに右側の紙を、点線にそって左側に向かって折る。



全体を裏返して、1～2の線に沿ってハサミで切る。



開くと、桜の花が完成!



柄の入った包装紙などを使って折ると変わった表情が楽しめる。

なじいじのためのキメワザ、道具を使わずどこでもできる手品のひとつをご紹介します。散歩の途中などでお孫さんがぐずり出して困ったら、「ちょっと見てらん！」と注目させてみましょう。手品は、ちょっと大きな動作でやってみるのがおすすめです。きっと「またやって！」とねだられる、じいじの十八番になるはずです。

お孫さんと一緒に遊ぶときの心構え

子どもにとって、遊ぶことは生きることともいえる大事なことです。遊びを通じて身体の動かし方を学び、人とのコミュニケーションを理解して、創造力も養われていきます。そんな孫の成長をダイレクトに感じられる遊びを大いに楽しむためには、お孫さんと一緒に素直に楽しむことが大事です。無理じいはず、リラックサして対応しましょう。乳幼児は気まぐれですから、前回夢中になっていた遊びに見向きもしないこともあります。その場合は体調が悪い場合もあるので、様子を見ながら子どものリズムに合わせてあげるようにしましょう。逆に、同じことを何度もやり

たがることもあるでしょう。これには根気よく付き合うことが大切です。さらに、遊びは引き際も肝心。ついつい時間を忘れてかまってしまうがちですが、遊びすぎると疲れてしまい、最後には泣かれてしまうことも。少し余力を残したところで「また今度」とうまく切り上げられると、次への期待感も高まります。

遊びの主導権は大人だけにあらず

「ここまで」どんな遊びを孫に提供するか」ということに主眼をおいて話を進めてきましたが、実は、遊びの主導権は大人が握らなくてもいいということも覚えておいてください。お孫さんの年齢にもよりますが、時には子どもに遊びを教えてもらうのもよいでしょう。自主性を育てる上でも、子どもに遊びの主導権を握らせるのはわるくない選択肢です。気分が乗れば、子どもは得意になって教えてくれるはずです。予想もつかない子どもの世界と一緒に楽しんでみましょう。きっと子育てでは気が付かなかった、新たな発見があるはずです!